

★今週の聖句

わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう
マルコによる福音書 1章2節

★ねらい

待降節の第2週である。前週の礼拝で、アドベントの意義などについて触れられていることと思う。この時期に洗礼者ヨハネの記事が読まれるのは、ヨハネがイエスさまの登場の準備をするために働いたことを覚えるためである。アドベントがクリスマスを待ちつつ準備する季節であることを、ヨハネを通して、再度子どもたちとわかちあいたい。

★説教作成のヒント

「待つ」ということは、こころを向ける、ということである。クリスマスを楽しみに待つ思いが子どもたちの中にもあることと思うが、それがケーキやおもちゃをもらえるイベントだから、ということでは少し淋しい。なぜクリスマスが楽しみなのか。それは、神さまがわたしたちにイエスさまをくださったからである。このメシアの到来は、イスラエルの民にとって、永い間待ち望んだ神さまとの約束の成就であった。この神さまに心に向けて「待つ」ことがアドベントの意義である。

★豆知識

洗礼者ヨハネは、イエスさまの母マリアの親戚であるエリサベトの子であるという。つまりイエスさまの親戚ということになる。ルカによる福音書の1章に、マリアとエリサベトの親交が描かれるので、説教準備にあたって目を通しておきたい。

2～3節は、マラキ書3章およびイザヤ書40章からの引用である。イスラエルの民にとって、イエスさまの登場は旧約聖書で語られた預言＝神さまとの約束の成就である。

★説教

突然ですが、先生の誕生日は〇月〇日(7月14日)です。先生は、誕生日が大好きで、とっても楽しみなのですが、みなさんの中にも誕生日が好きな人はいますか?・・・そうですか、みんなも自分の誕生日が大好きですね。

ではこの中に、明日が誕生日の人はいますか? では明後日の人は? みんな、あとどれだけ寝たら、自分の誕生日がやってくるか、わかっていますか?

先生はわかりますよ。あと〇〇日(219日)です。先生は、誕生日のことが大好きだから、あと何日たったら自分の誕生日が来るのか、しっかり数えて、誕生日が来るのを楽しみに、心の準備をしているのです。

みんなも、遠足の前の日には、ちゃんとおカバンの中に何を入れていくか考えて、準備をすると思います。楽しみなことを準備していくのは、とても大事なことです。

さて、先週から大切な事の準備が始まっているのを、みんなは知っていますか? なんの準備が始まったのでしょうか。それは、「先生の誕生日!」、ではなくて、イエスさまの誕生日です。みんな知っているように、イエスさまの誕生日というのは、クリスマスのことです。聖壇にある布の色が先週から変わったことも、このアドベントクランツも、みんなイエスさまの誕生日であるクリスマスを迎えるために、礼拝堂もきれいにして、心の準備をしていきましょう、ということなのです。

今日読んでもらった聖書にも、イエスさまがやってこられることを準備する人の話が出てきました。その人は、イエスさまの親戚のおじさんで、名前をヨハネさんといいます。ヨハネさんは、神さまの

大事な仕事をするために、イエスさまが地上にやって来られることがわかっていたのです。それなのに、みんなの気持ちが神さまから離れてしまっているのです。ヨハネさんはとても心配だったのです。そこで、みんなに神さまの約束を思い出してもらうために、町はずれの荒れ野にやってきて、そこでみんなに、神さまの約束について話を始めたのです。

さあ、神さまの約束とは、どんな約束だったでしょう。それは、神さまがみんなに1番素晴らしいプレゼントをくれますよ、という約束でした。そのプレゼントとは、イエスさまのことです。イエスさまは、神さまがわたしたちにくださった、1番大切なプレゼントでした。その一番大事なプレゼントを神さまがくださるのだから、みんな心を神さまに向けて、イエスさまをお迎えする準備をしましょう、とヨハネさんは、みんなに話して廻ったのです。

あと18日たつと、クリスマスがやってきます。クリスマスは、イエスさまのお誕生日。神さま、一番のプレゼントであるイエスさまをくださってありがとうございます、という気持ちで、お祈りしながら、心の中でクリスマスの準備をしていきたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5番

改訂49番

やってみよう

今日のお話はヨハネさんがイエスさまをお迎えするための準備をした、と言うお話でしたね。

私達もクリスマスはとても楽しみですね。

ヨハネさんのように私達も神さまが下さった一番のプレゼント、イエスさまを大切にお迎えしましょう。

教師はぬいぐるみの人形を白い布でくるみイエスさまにする。

みんなで輪になって座り「昔ユダヤの人々は」を歌う。

初めて歌うときは少しみんなで練習をする。

歌を歌いながらイエスさまを大切にお隣の人に順番に手渡して行く。

教師はタンバリンかトライアングル、など音の出る楽器を持ち真ん中で目を閉じ、適当なところで楽器を鳴らす。

その時イエスさまを持っていた人はイエスさまが自分のところに来て下さったことを喜んでぎゅっと抱きしめてからお隣の人に渡し輪の中に入って楽器を持って目を閉じる。

歌は先ほど止まった所から歌い始める。

みんなもイエスさまを喜んでお迎え出来るようにどんな準備が出来るかな？

話してみよう

- ・ クリスマスをお迎えする準備に何をしますか？それは贅沢な準備が求められていますか？
- ・ どうして大勢の人がヨハネの元に来たのでしょうか？
- ・ ヨハネが待っていたのはどなたで、何をしに来られる方でしょうか？

★今週の聖句

わたしは荒野で叫ぶ声である

ヨハネによる福音書 1章 23節

★ねらい

洗礼者ヨハネを学ぶことを通して、クリスマスにイエスさまを迎える心備えをしていくことが、先週に引き続いたこの主日のテーマである。ヨハネがイエスさまを迎えるために活動していったことを覚えたい。

説教例では、テキストの中の「わたしは荒野で叫ぶ声である」という箇所を、ヨハネの自己紹介の言葉として紹介し、ヨハネの働きの意味についてともに考えてみることを意図した。

★説教作成のヒント

2週続けて、同じテーマを同じ洗礼者ヨハネから学ぶことになるので、先週と同じようなお話になってしまうような工夫が必要となる。そのために、ヨハネの人物像や洗礼の意味などについて解説する説教を準備しても良いが、説教全体が、イエスさまの到来を待ち望む季節である待降節の意味から離れてしまわないように配慮しながら語りたい。

★豆知識

イスラエルの民は、困難な民族の歴史の中で、神さまが民を救うメシアを遣わしてくださることを神さまとの約束として待ち望んでいた。メシアは旧約聖書の言語であるヘブル語で救世主の意。これを新約聖書の言語であるギリシャ語に訳するとキリストとなる。祭司やレビ人、また群衆たちは、待ち望んでいたキリストとは、このヨハネではないか、と噂しあつたのである。

★説教

みなさんには、将来の夢がありますか？ どんな仕事をして、どんな人生を送りたいと思っていますか？ 大きくなって、大人になった時に、どんなふうに自己紹介をしたいでしょうか。

さて、今日は聖書の中で、ちょっと変わった自己紹介をしている、ヨハネさんのお話です。先週のお話を少し覚えている人もいるかもしれません。今日の主人公のヨハネさんは、イエスさまが来られるのを準備した方でした。

ヨハネさんは、ちょっと不思議な格好をしています。イエスさまの時代、みんなは布で作った洋服を着ていたのに、ヨハネさんはラクダの皮をはいで作ったラクダ毛皮の服を着ていました。そして、町の中で普通のご飯を食べて、普通の家に住むのではなくて、町の外の荒野で、洞穴のようなところに住んで、イナゴを食べたりして生活していたのだそうです。それで、みんなヨハネさんのことを、ちょっと変わった人だなあ、というふうに思っていたのです。

ところが、ヨハネさんが神さまの話を始めると、みんなびっくりすることになりました。ヨハネさんは、それまでの偉い学者さんや先生たちのように、「このきまりを守れない人はバチがあたる」とか、「こんなことも出来ないやつは天国には入れない」といって、困っている人を脅すようなことは言いませんでした。そのかわり、わたしもみんなも、みんなが自分勝手な人間だ。神さまは自分勝手な人間を喜ばれない。だから、わたしたちはみんなが、自分の自分勝手さを反省して、心を神さまに向けなければならない、と力強く語りました。そして、その反省のしるしとして、みんなに洗礼を勧めたのでした。みんな、ヨハネさんの言うことは本当だ、と思って、たくさんの人たちがヨハネさんからヨルダン川で洗礼を受けました。

けれども、みんながもっとびっくりする方が、そのあとすぐに来られることになりました。それがイエスさまです。ヨハネさんは、イエスさまが来られることを知っていて、そのために、みんなに心の準備をするように、とおすすめていたのです。

ヨハネさんは、偉い学者さん達が来て「あなたはだれなのですか」と質問した時に、「わたしは、声です」、という、ちょっと不思議な自己紹介をしました。それは、ヨハネさんのはたらきは、自分が有名になるため、とか、自分が尊敬されるため、とか、自分がお金持ちになるためのはたらきなのではなくて、すべてが神さまのためなのはたらきです、ということを伝えたかったからなのです。

わたしたちにも、いろいろな夢があります。そのわたしたちの夢も、自分が有名になるため、とか、自分がお金持ちになるため、とか、自分が誉められるためだけではなくて、神さまのため、困っている誰かのための働きになっていくといいですね。

だんだんクリスマスが近づいてきました。わたしたちも、心を神さまに向けて、イエスさまをお迎えする準備をしていきたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 109番
- 改訂63番

やってみよう

ヨハネさんは自分のことを「荒野で叫ぶ声」だと言って自己紹介しました。みんなでヨハネさんを探しましょう。

かるたの様なカードを用意します。

2枚1組にして	予言者	予言者の絵
	エリヤ	エリヤの絵
	メシア	メシアの絵
	荒野で叫ぶ声	らくだの毛皮を着たヨハネの絵

片方には字、もう片方には相当する絵を描いて机の上にバラバラに伏せて置きます。ひとりずつトランプの神経衰弱の要領で字と絵があったものをめくることが出来たら自分の札になる。

こどもが多い場合はイエスさま、マリア、ヨセフ、博士、羊飼いやなど増やしても良い。

話してみよう

- ・ ヨハネは「あなたは、どなたですか」と尋ねられて、何と答えたでしょう？
- ・ わたしたちが同じ質問をされたら何と答えるでしょう？
- ・ 道がまっすぐでないとなんか困ることがありますか？

★今週の聖句

これは我らの神の憐れみの心による

ルカによる福音書 1章 78節

★ねらい

待降節の間、ずっと待ち望んできたクリスマスの到来。そのことが、なぜわたしたちにとっての大きな喜びであるのかを確認する時としたい。説教例では、神の独り子であるキリストが降誕されたことの神秘と、そのことが持つ意味とを、ひとつの譬えを用いて表現した。クリスマスが嬉しい、という子どもたちの喜びの気持ちの中で、神と人との喜ばしい関係を確認していくことが意図されている。

★説教作成のヒント

この日のために選ばれているテキストは、ヨハネによる福音書の降誕物語である。多分に神学的で抽象的な箇所であるが、クリスマスの意義深さを確認する良いテキストである。ただ、小さな子どもたちは抽象的なお話が苦手であるので、この出来事を子どもたちが具体的なイメージをもって理解していけるように、手助けが必要である。子どもたちに目をつぶってもらって闇と光とをイメージしてもらう、といった説教を構成することも出来る。

★豆知識

「言」は、ギリシャ語の「ロゴス」の翻訳であり、言語、論理、真理、思想、道、語られたもの、など多様な翻訳が可能な単語である。このロゴスをキリスト教、特にヨハネ福音書はキリストを指す言葉として採用した。

★説教

みなさん、クリスマスおめでとうございます。クリスマスは、何の日でしょうか……。そうです、イエスさまの誕生日ですね。

では、なぜイエスさまの誕生日をクリスマス、というか、知っていますか？クリスマスの「クリス」というのは、キリストのこと。つまりイエスさまのことです。そしてクリスマスの「マス」というのは、礼拝のことです。ですから、クリスマスというのは、イエスさまの誕生日をお祝いする礼拝のことなのです。

イエスさまは、神さまがわたしたちに送って下さった、世界で一番大切なプレゼントでした。ですからわたしたちは、神さま、素敵なプレゼントをありがとうございます、という気持ちで、うれしくクリスマスをお祝いするのです。

さて、みんなのお家では、金魚を飼っている人がいるでしょうか。あるいは、夏にはカブトムシを飼ったりする人がいるかもしれません。その金魚やカブトムシが、とっても困っている。誰かが助けに行かないといけない、という時に、お家の人、「金魚が困っているから、金魚を助けるために、お前は明日から金魚になりなさい」、とあなたに言ったら、どう思うでしょうか。

金魚になったら、布団で寝ることも、美味しいお家のご飯を食べることも、お友だちと遊ぶことも出来ません。おうちのひととも一緒に暮らすことが出来なくなってしまいますから、大事なこどもが金魚になってしまったら、お家の人たちも、とても悲しいと思います。

でも、神さまは違ったのです。神さまは、わたしたち人間が困っているのを見て、放っておかれなかったのです。それで、神さまの大切な、たったひとりの子どもであったイエスさまを、人間の姿にして、わたしたちのところへ送って下さったのです。それは、神さまがそのくらいわたしたちを大

切に思っていてくださったからです。

イエスさまが、人間となってわたしたちのところに来て下さったおかげで、わたしたちは神さまがどのくらいわたしたちのことを大切に思っていて下さるのか、神さまのことが、とってもよくわかるようになりました。神さまがくださった、イエスさまというプレゼントは、だから世界中で一番のプレゼントなのです。

神さまは、ご自身が一番大切にしていたイエスさまを、わたしたちにクリスマスのプレゼントとして贈って下さいました。そのことにありがとうございます、という思いで、わたしたちも、自分の周りの人たちのことを大切にしていきたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

28番

改訂76番

やってみよう

クリスマスおめでとうございます

みんなクリスマスにプレゼント貰ったかな？

今日はもし、みんながイエスさまにプレゼントあげるとしたら、何あげたいかな、って考えてみて下さい。

じゃあ心の中でイエスさまにあげるプレゼントをしっかりとってね。

では一番小さい〇ちゃんから順番に言って貰います。

「私はイエスさまに◎◎◎をプレゼントしたいです」って言って下さい。

その次の人は「私はイエスさまに◎◎◎と△△△をプレゼントしたいです」

と自分の前の人と言った物を最初に言ってから自分のプレゼントを言います。

次の人は1番目の人と2番目の人のプレゼントを言ってから自分のプレゼントを言います。

と小さい順にイエスさまにあげたいと思うプレゼントを言って貰います。

最後は先生がみんなの言ったプレゼントを言ってから自分のプレゼントを言きましょう。

話してみよう

- ・ 神さまをほめたたえたい時ってどんな時ですか？
- ・ あけぼのの光を調べてみよう。どんな光でしょうか？
- ・ 光が必要なのはどんなところ？どんな時？

★今週の聖句

今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった

ルカによる福音書 2章11節

★ねらい、

クリスマスが、なぜわたしたちにとっての喜びであるのか。それは、イエスさまがどのようなお方であるのかを知ることによって理解出来る。そのことが端的にわかりやすく描かれているのがクリスマスの物語である。説教例では、そのことを「真ん中」と「すみっこ」を対比的にイメージしてもらうことによって、子どもたちに理解してもらおうと試みた。わたしたちが神さまの助けを必要とする時、そこにイエスさまがともにいてくださる。イエスさまはそのようなお方としてクリスマスにお生まれくださった。

★ 説教作成のヒント

イエスさまが、きらびやかな王宮や神殿のベッドではなく、粗末なエサ箱に寝かされたことは、イエスさまがどのような方として地上に来られたかを象徴している。都市生活者からは軽蔑の対象であった羊飼いたちが、その誕生の最初の証言者となったことに視点をあてても良い。

★豆知識

聖書のテキストには、イエスさまが馬小屋でお生まれになったとは書かれていない。ただ、「飼い葉桶に寝かせた」とあることから、そのように言われているのである。当時、家畜小屋には洞穴を利用するのが一般的であったという。

★説教

みんなは、世界の中心とはどこだと思いませんか？ 北極点や南極点の世界の中心だ、と考える人がいるかもしれませんが。いや、世界で一番強い国であるアメリカの大統領が住んでいるワシントンが世界の中心だというひともいるでしょう。世界で一番人口の多い街であるインドのムンバイが中心だとか、いや都市圏という考え方をすれば東京が世界で一番人口が多いのだ、とか、世界中でお金が一番集まるのはニューヨークだとか、いろいろな考えがあると思います。

イエスさまの時代、世界で一番強い国はローマ帝国でした。ですから世界の中心は、ローマ帝国の首都であるローマという町でした。でも、イエスさまが生まれたのは、ローマの町ではありません。ローマ帝国が支配する国の中で、ローマから一番遠く離れた、とつても戦争が弱いユダヤという国でした。そのユダヤの国の中で一番栄えていたのはエルサレムという町でした。そこには金箔によって飾り付けられた立派な神殿があって、そこではたくさんの祭司たちが神殿の仕事をしていました。けれども、イエスさまが生まれたのはエルサレムではありませんでした。それは、ベツレヘムという小さな村でした。ベツレヘムは、ユダヤの中でも小さな村でしたが、それでも村にはお金持ちも住んでいましたし、大きくて立派な家もありました。けれど、イエスさまが生まれたのは、そのような立派な家ではなかったのです。

イエスさまが生まれたのは、ローマ帝国の中の一番田舎のユダヤの国の、そのユダヤの国の中でほんの小さな村であったベツレヘム村の、そのまた村はずれにあった小さな洞穴の中でした。その洞穴は、家畜小屋として使われていた洞穴でした。洞穴の中には、動物たちが餌を食べるときに使う飼い葉桶、と呼ばれるエサ箱があって、この夜に生まれたばかりのイエスさまは、このエサ箱の中に寝かされたのでした。

それがどういうことかという、イエスさまはまったく隅っこで生まれたのだ、ということです。ローマ帝国の隅っこのユダヤの国、そのユダヤの国の隅っこのベツレヘムの村、そのベツレヘムの村の隅っこの村はずれの洞穴。イエスさまは世界の中の一番すみっこでお生まれになったのでした。

それはつまり、イエスさまは弱い者とともにいてくださる、ということです。わたしたちが元気がなく、病気であったり、落ち込んでいたり、人から悪口を言われたり、嫌われたり、馬鹿にされたり、怒られたり、勝負に負けたり、困惑していたり、お腹がすいていたり、悲しい思いでいたり、誰も味方がいなかったり、誰かに一緒にいてほしいと願っていたり、助けが必要であったり、励ましが必要であったり、勇気が必要であったり、友達が必要であったり、慰めが必要であったり、ひとりぼっちであったり、隅っこに追いやられてしまったようなとき、そこに、あなたのために、イエスさまが生まれてくださるのです。

今日は、そんなイエスさまが、すみっこに生まれてくださったことを感謝する、クリスマスの礼拝です。みなさん、クリスマスおめでとうございます。そして、イエスさま、クリスマス、ありがとうございます。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

- 27番
- 改訂74番

やってみよう

以前、CS 教師研修会で簡単なページェントをした事があります。

先生たちは生徒にさせた事はあるけれど自分がしたことはない、と言う人が多く、それぞれ自分のなりたい役割になって衣装をつけページェントをしてみました。自分が演じることによって羊飼いや博士、マリアやヨセフ、それぞれの気持ちが感じる事が出来てとてもよかった、と言う感想でした。

24日またはCSのクリスマスでページェントをすることも居る事でしょう。

もし24日に分級をすることができればその日来た子供達だけでごく簡単なページェントをしてみましょう。

歌は教師が1節ずつ歌ってこどもに繰り返させても良いし、場合によったら教師が歌ってあげるだけでもいいと思います。

自分がなりたい役割になり（何人もの3歳の男の子がマリアになりたいと希望しました）簡単な布を体に撒いたり頭にかぶったりして「その気」になれるようにしてあげましょう。

人数によって場面も「天使とマリア」「羊飼いや博士」「宿屋の場面」「降誕の場面」の中から幾つか選んでも良いと思います。

時間があれば順番にどの場面もやってみてもいいでしょう。

本番でやりたかった役割をして満足することも居るはずですよ。

先生も一役かってでたらどうでしょう。

みんなで楽しんでみるのも良いと思います。

マリアさま

1969

Handwritten musical notation for the first system of 'マリアさま'. It consists of a treble clef staff with a melody and a bass clef staff with accompaniment. The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is 4/4.

Handwritten musical notation for the second system of 'マリアさま' with lyrics. The lyrics are written below the treble clef staff.

マリアさま
 二おかしおに
 おききおに
 おたはかおに

Handwritten musical notation for the third system of 'マリアさま' with lyrics. The lyrics are written below the treble clef staff.

えんぼお
 とうと
 うぶお
 とうと
 そのうお
 おききお

Handwritten musical notation for the fourth system of 'マリアさま' with lyrics. The lyrics are written below the treble clef staff.

おかしお
 おきお
 おきお
 おきお
 おきお
 おきお

Handwritten musical notation for the fifth system of 'マリアさま'. It consists of a treble clef staff with a melody and a bass clef staff with accompaniment. The system ends with a double bar line.

マリアさま

Handwritten musical notation for the first system of 'マリアさま'. It consists of a treble clef staff with a melody and a bass clef staff with accompaniment. The key signature has one flat (B-flat), and the time signature is 4/4.

Handwritten musical notation for the second system of 'マリアさま'. It consists of a treble clef staff with a melody and a bass clef staff with accompaniment.

マリアさま
 マリアさま
 マリアさま
 マリアさま

(ふしぎなほしは)

ふしぎなほしは

ひ、かみか 11 → たなへの しらせごよ.

ふしぎなほしは イエスキの ほうまねはたの しらせごよ.

わたく(たちも行きまほ) べつべつめう まごや

(かわいい赤ちゃんエスさまに)

かわい 赤ちゃん エスさまに

わたしは 赤ちゃん イエさまに

かわいい赤ちゃん(に) エスさまに

わたしは エスさまに かわいい

話してみよう

- どうしてヨセフとマリアには泊まる場所がなかったのかな？
- 羊飼いたちはどうして夜通し羊の群れの番をしていたのかな？
- 神さまは羊飼いたちに一番初めにイエス様の誕生の喜びを伝えました？王様でも、街の人でもないのには理由があるのかな？

★今週の聖句

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。
ヨハネによる福音書 2章11節

★ねらい

クリスマスの主日に続く降誕後主日に、このカナの結婚式の箇所が読まれるのは、わたしたちが先週に引き続いて喜びの季節にいることを表している。結婚式のお祝いは、わたしたちの日々の生活の中で、最大限の喜びの出来事であるからである。この喜びの時にあって、その見える部分にこだわるのではなく、喜びの本質に眼を向けるように、とのメッセージをイエスさまの発言から汲み取って展開する説教とした。

★説教作成のヒント

説教例では、すこし変わった切り口から展開したが、クリスマスの喜びと、結婚式の喜びを重ね合わせる形で、わたしたちの喜びを祝福して下さる神さまのゆたかな恵みに焦点をあてる説教が一般的であろう。また、人生の苦勞の意味が今はわからなくても、水をくみ続けることによって神さまがそれを驚くほど豊かに用いてくださるのだ、と展開することも出来る。

★豆知識

古代ユダヤの結婚式は1週間も続くことが普通であったという。ヨハネによる福音書では、イエスさまの7つの奇跡(しるし)が取り上げられているが、このぶどう酒の奇跡はそのうちの一番初めの奇跡である。

無意味な水が豊かなぶどう酒に変化するというこの箇所は、歴史的には教会において、洗礼から聖餐へと到る聖礼典と結びつけて語られることが多かった箇所である。

★説教

先週クリスマスの御祝いをしましたが、もう2014年も終わりですね。あと4つ寝たら、またみなさんが楽しみにしているお正月がやってきます。日本では昔からおせち料理をつくる習慣がありますから、みなさんのお家でも、おせち料理を食べる人もいるでしょう。おせち料理は、お重の中にいろんな種類の料理を詰めていきますから準備が大変です。全部を自分で作るとしたら、お家の方はだいぶ大変だろうと思います。

さて、今日はイエスさまが、お母さんであるマリアさんや他のお弟子さん達と一緒に結婚式にお呼ばれをした、というお話です。ユダヤの国の結婚式は1日では終わりません。場合によっては1週間もお祝いのパーティーが続くのだそうです。ですからそのために、花嫁さんのお家も花婿さんのお家も、たくさんのごちそうを準備して結婚式の用意をするわけです。1週間分のパーティーの準備をするなんて、考えただけでも大変な仕事です。

当然、イエスさまが出席された結婚式にも、たくさんのごちそうが準備されました。ところが、お祝いの何日目のごちそうであったかわかりませんが、途中で大変なことが起こりました。あんまりたくさんの方がお祝いにやってきたために、準備していた飲み物が、途中で足りなくなってしまったのです。これではせっかくのお祝いが台無しになってしまいます。結婚式に招待した人たちからも、「ああ、あの家は結婚式の準備もちゃんとできない、恥ずかしい家だなあ」といって、笑いものになってしまうかもしれません。それで、花婿さんの家族も、花嫁さんの家族も、とっても困ってしまったのです。

それを見ていたのはイエスさまのお母さまのマリアさんでした。マリアさんは、イエスさまに「お祝いの飲み物がなくなって、この家の人たちが困っていますよ」、とお話ししました。それを聞いたイエスさまは、何と言われたのでしょうか。イエスさまは「わたしの時はまだ来ていません」と話されたそうです。いったい何故イエスさまは、「では、わたしが助けてあげましょう」と言われなかったのでしょうか。イエスさまは、「お祝いの飲み物がなくなったことが、そんなに大変なことですか？ わたしはそんなこと、ちっとも気にしていませんよ」、という気持ちだったのではないのでしょうか。

わたしたちは、時々こまったことに出会います。でも、その困ったことということの多くは、周りの人たちからどんなふうに見られるか、という心配から来ていることが多いのです。飲み物があってもなくても、花嫁と花婿が神さまから祝福されて結婚するなら、それで充分なのです。わたしたちは、かっこいいところを見せたい、と思っとうわべを取り繕ったり、こんなところを見られたら恥ずかしいと思っ都合の悪いことを隠したりします。けれどもイエスさまは、人からどう見られるかではなくて、神さまから見た時に恥ずかしくない生き方をしなさい、と教えてください。ほんとうにそのように生きられるのなら、あなたはだんだん困ることもなくなってくるでしょう、と、そのように言われるのです。本当に大切な事を見極めながら、神さまに信頼して、神さまに喜ばれる生き方をしていきたいと思います。

…それで、結婚式がその後どうなったか知りたいですか？ もちろんイエスさまは、最高の飲み物によって2人を助けて下さったに決まっているじゃないですか。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

26番

改訂70番

やってみよう

今日の説教を話し合いで復習しどの程度理解しているか確認する。

特に小さいこどもはちょっとした言葉の聞き違いからとんでもない間違っ理解をしていることがあるので説教理解の確認は分級のはじめに欠かせない。

予め水瓶の代わりに透明ではない土瓶、または水筒を2個、用意しておく。

そのひとつには予め葡萄ジュースを入れて置く。

もうひとつは空のまま別々に水差し、またはやかんに水を用意しておく

どちらもこどもに見えないところに置く。

イエスさまのお母さんがイエスさまに「葡萄酒が足りません」と言われました。

大切な結婚式のお祝いで葡萄酒が無くなったら困るよねー。

イエスさまは「私の時はまだきていません」と言われましたがお母さんが「この人が何か言いつけたらその通りにしてください」と言われましたね。きっとマリアさんはイエスさまが助けて下さることが分かっていたのでしょうね。イエスさまは「水瓶に水を一杯入れなさい」と言われましたね。

ここでひとつの入れ物と水差しをだして机に置く。

じゃあ誰かこの水を水瓶…これは水瓶じゃないけど、水瓶と思っ、ここにこの水を入れてみて下さい。

聖書には書いてないけど、イエスさまはその後できっ神さまにお祈りをされたのじゃないかな、と思います。みんなも目をぎゅっと閉じてお祈りをしてみてください。

こどもが目を閉じている間に水の入った入れ物とジュースの入った入れ物を取り替える。

ハイ、目を開けて、みんながお祈りをしたら水が葡萄酒になったかな？

と子供たちにコップを配りジュースを入れる。

みんなでジュースを飲みながら「みんなもイエスさまのように困っている人を助けてあげることができたら良いね」と話し合う。

話してみよう

- ・ イエス様は何のためにこの世界に来られたのでしょうか？困っている人のため？
- ・ ぶどう酒にはどんな意味があるのかな？教会でぶどう酒を使うことはありますか？